中尊寺

http://digitalarchiveproject.jp/information/中尊寺

中尊寺は嘉祥 3 年(850)、比叡山延暦寺の高僧慈覚大師円仁(じかくだいしえんにん)によって開かれました。その後、12 世紀のはじめに奥州藤原氏初代清衡公によって大規模な堂塔の造営が行われました。

清衡公の中尊寺建立の趣旨は、11 世紀後半に東北地方で続いた戦乱(前九年・後三年合戦)で亡くなった生きとし生けるものの霊を敵味方の別なく慰め、「みちのく」といわれ辺境とされた東北地方に、仏国土(仏の教えによる平和な理想社会)を建設する、というものでした。それは戦乱で父や妻子を失い、骨肉の争いを余儀なくされた清衡公の非戦の決意でもありました。

清衡公は長治 2 年(1105)より中尊寺の造立に着手します。まず東北地方の中心にあたる関山に一基の塔を建て、境内の中央に釈迦・多宝如来の並座する多宝寺を建立し、続いて百余体の釈迦如来を安置した釈迦堂を建立します。この伽藍(がらん)建立は『法華経』の中に説かれる有名な一場面を具体的に表現したものでした。

清衡公は釈迦如来により説かれた法華経に深く帰依し、その平等思想に基づく仏国土を平泉の地にあらわそうとしたのでした。清衡公は『中尊寺建立供養願文』の中で、この寺は「諸仏摩頂の場」であると述べています。この境内に入り詣でれば、ひとりも漏れなく仏さまに頭を撫でていただくことができる。諸仏の功徳を直に受けることができる、という意味です。

法華経の教えに浄土教や密教を加え大成された天台宗の教えに基づく伽藍が境内に建ち並び、その規模は鎌倉幕府の公的記録『吾妻鏡』によると、寺塔が四十、禅坊(僧の宿舎)が三百におよんだといいます。

二代基衡公は、父の志を継いで薬師如来を本尊とする毛越寺の造立をすすめ、三代秀衡公は阿弥陀如来を本尊とする無量光院を建立しました。三世仏(過去釈迦、現世薬師、未来世阿弥陀)を本尊とする三寺院の建立は、すべての生あるものを過去世から現世さらに未来世にいたるまで仏国土に導きたいという清衡公の切実な願いの具現でもありました。

平泉はおよそ 100 年近くにわたって繁栄し、みちのくは戦争のない「平泉の世紀」でした。しかし、平氏政権を倒した源義経が、兄頼朝と対立し平泉に落ちのびて間もなく、義経を保護した秀衡公が病死すると、四代泰衡公は頼朝の圧力に耐えかね義経を自害に追い込みます。その泰衡公も頼朝に攻められ、文治 5 年(1189)奥州藤原氏は滅亡したのです。

鎌倉時代以降、大きな庇護者をうしなった中尊寺は次第に衰退し、建武 4 年(1337)の火災で惜しいことに多くの堂塔、宝物を焼失しました。しかし国宝建造物第1号の金色堂をはじめ、建築、絵画、書跡、工芸、彫刻、考古、民俗の各分野にわたる文化遺産が現在まで良好に伝えられ、東日本随一の平安仏教美術の宝庫と称されています。

平成 23 年(2011)に中尊寺を含む「平泉の文化遺産」が世界文化遺産に登載されました。

001_中尊寺000

002_中尊寺001

003_中尊寺002

004_中尊寺003

005_中尊寺004

006_中尊寺005

007_中尊寺006

008_中尊寺007

009_中尊寺008

010_中尊寺009

011_中尊寺010

012_中尊寺011

013_中尊寺012

014_中尊寺013

015_中尊寺014

016_中尊寺015

017_中尊寺016

018_中尊寺017

019_中尊寺018

020_中尊寺019

021_中尊寺020

022_中尊寺021

023_中尊寺022

024_中尊寺023

025_中尊寺024

026_中尊寺025

027_中尊寺026

028_中尊寺027

029_中尊寺028

030_中尊寺029

031_中尊寺030

032_中尊寺031

033_中尊寺032

034_中尊寺033

035_中尊寺034

036_中尊寺035

037_中尊寺036

038_中尊寺037

039_中尊寺038

040_中尊寺039

041_中尊寺040

042_中尊寺041

043_中尊寺042

044_中尊寺043

045_中尊寺044

046_中尊寺045

047_中尊寺046

048_中尊寺047

049_中尊寺048

050_中尊寺049

051_中尊寺050

052_中尊寺051

053_中尊寺052

054_中尊寺053

055_中尊寺054

056_中尊寺055

057_中尊寺056

058_中尊寺057

059_中尊寺058

060_中尊寺059

061_中尊寺060

062_中尊寺061

063_中尊寺062

064_中尊寺063

065_中尊寺064

066_中尊寺065

067_中尊寺066

068_中尊寺067

069_中尊寺068

070_中尊寺069

071_中尊寺070

072_中尊寺071

073_中尊寺072

074_中尊寺073

075_中尊寺074

076_中尊寺075

077_中尊寺076

078_中尊寺077

079_中尊寺078

080_中尊寺079

081_中尊寺080

082_中尊寺081

083_中尊寺082

084_中尊寺083

085_中尊寺084

086_中尊寺085

087_中尊寺086

088_中尊寺087

089_中尊寺088

090_中尊寺089

091_中尊寺090

092_中尊寺091

093_中尊寺092

094_中尊寺093

095_中尊寺094

096_中尊寺095

097_中尊寺096

098_中尊寺097

099_中尊寺098

100_中尊寺099

101_中尊寺100

102_中尊寺101

103_中尊寺102

104_中尊寺103

105_中尊寺104

106_中尊寺105

107_中尊寺106

108_中尊寺107

109_中尊寺108

110_中尊寺109

111_中尊寺110

112_中尊寺111

113_中尊寺112

114_中尊寺113

115_中尊寺114

116_中尊寺115

117_中尊寺116

118_中尊寺117

119_中尊寺118

120_中尊寺119

121_中尊寺120

122_中尊寺121

123_中尊寺122

124_中尊寺123

125_中尊寺124

126_中尊寺125

127_中尊寺126

128_中尊寺127

129_中尊寺128

130_中尊寺129

131_中尊寺130

132_中尊寺131

133_中尊寺132

134_中尊寺133

135_中尊寺134

136_中尊寺135

137_中尊寺136

138_中尊寺137

139_中尊寺138

140_中尊寺139

141_中尊寺140

142_中尊寺141

143_中尊寺142

144_中尊寺143

145_中尊寺144

146_中尊寺145

147_中尊寺146

148_中尊寺147